

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32623

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520407

研究課題名(和文) 二〇世紀前半に現在の中国領内で刊行されたモンゴル語定期刊行物の研究

研究課題名(英文) Study of Mongolian periodicals published in China's territories in the early 20th centurys

研究代表者

呼和巴特爾 (Borjigin, Huhbator)

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：80338540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、20世紀前半に中国領内で刊行されたモンゴル語定期刊行物を世界各地から収集・保存し、それをモンゴル研究に活用するためである。特に、モンゴル語近代語彙の形成を主とする現代モンゴル語書きことばの形成について研究することが主な目的であった。この目的を達するため、本研究期間内に「MongGul-un sonin bicig(1909～1918)」というモンゴル語定期刊行物 モンゴル語定期刊行物史における位置づけと所蔵状況」をはじめ、7篇の論文を発表した。それはいずれも研究計画に沿って実施された考察による成果で、この分野における今後の研究にとって重要な意義をもつものとする。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to collect Mongolian periodicals published in Chinese territory in the early 20th century from all parts of the world and to preserve it, in order to utilize it for the future Mongolian studies. Especially, the main purpose of this study was to investigate the formation of the modern Mongolian written language which mainly involved the formation of the modern Mongolian vocabulary. To achieve this goal, I have published seven articles including "The Periodical Mongolyn sonin bichig (1909-1918: Its position in the history of Mongolian periodicals and where surviving archives are collected". These were the results of many investigations that were carried out along with the project plan, and I believe that this study will be significant for the future studies in this field.

研究分野：モンゴル研究 社会言語学

キーワード：モンゴル語定期刊行物 モンゴル語近代語彙 モンゴル語現代書きことば

1. 研究開始当初の背景

研究代表者が 20 世紀前半に中国領内で刊行されたモンゴル語定期刊行物の歴史的、文献学的、言語的資料価値に注目し、それを体系的に収集しはじめたのは 1990 年代半ばころからだった。それにあたり、まず、戦前の内モンゴルに関する資料が数多く所蔵されている日本の各資料館から着手し、調査と複写を行ないはじめた。その段階で、中国ではまったく知られていなかった、あるいは所蔵されていないか、所蔵が確認されていなかった多くのモンゴル語定期刊行物の存在を明らかにした。これらのモンゴル語定期刊行物は日本でもそれまでに研究に利用されたことはほとんどなかった。そのなかで特記に値するのは、東洋文庫に所蔵されていた *Mongγul üsüg-ün bodurul* (『蒙話報』) という月刊誌 23 期分について調査できたことだった。光緒 34 年 (1908) 4 月に吉林調査局から創刊された本誌は、現在利用できる最も古いモンゴル語定期刊行物で、本国で利用できたのは日本にも所蔵されている第二十五期のみだった。刊行期間にしても、1920 年代までのモンゴル語雑誌のなかでは本誌が最も長かった。それに、この雑誌は清朝末期から民国初期にわたって発行されていた中国側の初めての「官報」だったため、支配側の対モンゴル政策の実施状況を知るうえで貴重な歴史資料になることはいうまでもなく、モンゴル語定期刊行物史及びモンゴル語近代語彙形成の研究においてもっとも重要な資料であると判断されたため、研究代表者は本誌に絞った研究論文を 6 回にわたって発表し、現在なお研究を継続している。ほかにも、研究代表者が大阪外国語大学に留学していた関係で、同大学附属図書館「石濱文庫」所蔵の未整理の資料のなかに、日本側が 1918 年から 1945 年までに奉天 (瀋陽) と新京 (長春) で刊行した数種類の貴重なモンゴル語新聞があったことに注目し、比較的早い時期に

調査を行なえたことなど、日本での調査には際立った成果があった。それをきっかけに、研究代表者は、中国で出されていた各図書館の図書目録、とりわけ、後記『建国前内蒙古地方報刊考録』の記述をもとに、中国各地の図書館における「建国前」のモンゴル語定期刊行物の所蔵状況を確認するため、現地へ赴き、実物を確認し、必要なものはなるべく完全な形で複写させてもらうよう努めた。研究助成など資金援助がまったくなかった私費留学生だった研究代表者は博士論文の完成をめざしてひたすら調査を続け、フフホトと北京をはじめ、瀋陽、長春、南京、上海などの多くの図書館、資料館、または個人を訪ね、資料の存在を確認し、少量のものについては複写や撮影をした。そのなかで内モンゴル日報社の資料室で調査ができたことは特筆すべき成果の一つだった。その資料室には内モンゴルにとって政治的にもっとも複雑な時期だった 1940 年代後半に発行された多くのモンゴル語定期刊行物が所蔵されていた。「資料室」といっても、まったく未公開だったため、厚いほこりに覆われた古い新聞と雑誌が無造作に重ねられているだけで、中には現在なお研究代表者以外に利用したことのない数種類の貴重な新聞が含まれている。それ以外に、研究代表者は他の研究調査のついでにモンゴル国のウランバートル市、新疆ウイグル自治区のウルムチ市、内モンゴル東部のいくつかの町、台湾の台北市、ロシア連邦ブリヤート共和国のウランウデ市でも調査を行っていた。

本研究の対象になる中国側では、1947 年の内モンゴル自治政府樹立以前、モンゴル語の定期刊行物は現在の内モンゴル自治区領内よりも、むしろ、北京、奉天、南京、新京、張家口など、内モンゴルを支配していた歴代政権や政治勢力の中心地で発行されていた。その後、モンゴル語の定期刊行物を含む当時の歴史に関する多くの資料が戦乱や政治運

動などで紛失、または処分された。そういう事情もあり、中国領内における 20 世紀前半のモンゴル語定期刊行物についての研究はほとんど行なわれず、知られていた数少ないモンゴル語定期刊行物のタイトルと発行機関などが古い図書目録集に収録され、ごく簡単に紹介されるだけだった。例えば、中国で発行されたモンゴル語の古い書籍を扱ったもっとも完全な目録として 1980 年代までよく利用されていた『全国蒙文旧図書資料連合目録』（八省区蒙古語文工作協作公室 1979 年）に収録された古いモンゴル語定期刊行物は 25 種類のみだった。そうした状況に画期的な転換をもたらしたのが 1987 年に内蒙古自治区図書館から発行された『建国前内蒙古地方報刊考録』という研究書で、中華人民共和国建国（1949）までの「内蒙古地方刊行物」における「蒙漢合璧」を含むモンゴル語定期刊行物は、一挙に 74 種類（雑誌 44 種類、新聞 30 種類）に増えたが、そのなかで、所蔵や存在が確認できていないものが 28 種類（雑誌 14 種類、新聞 14 種類）あった。

資料の収集に関して言えば、モンゴル語の古い定期刊行物は、他の大言語のばあいのように膨大な量のものが残されているわけではなく、個人でも集められないことはないという判断があった。そのような状況で実施された調査の成果として、研究代表者により収録された 20 世紀前半刊行のモンゴル語定期刊行物は、1997 年 10 月に研究代表者が博士学位請求論文「漢語の影響下におけるモンゴル語近代語彙の形成——中国領内のモンゴル語定期刊行物発達史に沿って——」を完成させた（一橋大学大学院社会学研究科に提出）時点ですでに 109 種類にのぼり、その中で実際に本博士論文に利用されたものは約 80 種類だった。研究代表者は収録されたすべてのデータについて「中国領内発行古いモンゴル語定期刊行物（1905～1950）カタログ」を作成し、詳細に分類した。その後も研究代

表者はドイツのボン大学、北京、上海、瀋陽、長春、大連、ハルビン、ウランバートルなどで調査を続け、実際、ボン大学ではドイツの著名なモンゴル学者ワルター・ハイシヒが戦前内モンゴルで収集したモンゴル語定期刊行物から、それまでに入手していなかった数種類のモンゴル語新聞を約 2000 枚複写することができた。

2. 研究の目的

「二〇世紀前半に現在の中国領内で刊行されたモンゴル語定期刊行物の研究」は、研究代表者が十数年間にわたって行なってきた研究調査の成果を踏まえ、第二次世界大戦終了後、中国で処分、または紛失されたモンゴル語定期刊行物を、中国国内及び世界各国からその残存部を体系的に調査し、データの保存及び資料の研究分析を行なうものである。本研究の第一の目的は、20 世紀前半における内モンゴルの歴史、社会、特に、日本との関係及び言語、文化の変化の全貌を明かす広範にわたる研究に一次資料を提供し、資する。第二の目的は、中国領内のモンゴル語出版史における 20 世紀前半刊行モンゴル語定期刊行物の体系的調査と資料保存及び資料分析を進める。第三の目的は、現代モンゴル語書きことばの形成においてもっとも重要な一環となるモンゴル語近代語彙形成のプロセス及び現代モンゴル語書きことばの文体や表現などに関する研究のための基本資料を充実させることであった。

本研究期間内に完成させたい研究及び作業の予定は次の 3 部からなっていた。

(1)モンゴル語定期刊行物の収録と収集、具体的な収集地などは次の通りである。

a、大連、瀋陽、北京の図書館など中国国内にある収録済み未収集の雑誌数種類ほか（以下資料名省略）b、アメリカのインディアナ大学図書館所蔵の新聞一種類ほか、c、ロシア科学アカデミーシベリア支部モンゴル学、チ

ベット学と仏教学研究（The Institute of Mongolian, Tibetan and Buddhist Studies of Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, ウランウデ市）所蔵雑誌種類と新聞数種類ほか、d、モンゴル国国立歴史公文書所蔵新聞数種類ほか、e、島根県立大学図書館所蔵、故・服部四朗博士コレクション雑誌数種類ほか、f、大阪大学付属図書館所蔵新聞未収集分、g、東京外国語大学モンゴル研究室所蔵雑誌種類ほかなど。

(2) 前記「中国領内発行古いモンゴル語定期刊行物（1905～1950）カタログ」を完成させる。

(3) 資金の可能な限り収集済みの複写、マイクロフィルム、写真資料をPDFなどにして保存する。

3. 研究の方法

すでに収集した20世紀前半刊行数十種類のモンゴル語新聞、雑誌からその一部を整理し、データ記録を行ない、重要度や保存状態の順から順次撮影、またはPDF化して保存した。次に、日本国内、中国、モンゴル国、ロシア連邦、アメリカ合衆国の大学や研究所などを訪れ、資料収集を行った。それにより、新たに収集した資料について、または、それらの資料を利用して研究発表を行った。本研究では最終的に、現時点における収録状況が反映された「中国領内発行古いモンゴル語定期刊行物（1905～1950）カタログ」の完成とその刊行をめざす。

各年度の主な実施状況は次の通りである。

平成24年度

9月、ロシア連邦ブリヤート共和国ウラン・ウデ市におけるロシア科学アカデミー・シベリア支部モンゴル学・チベット学・仏教学研究で20世紀前半に中国で刊行されたモンゴル語定期刊行物について調べ、同研究所所蔵 Dotuyadu mongyul-un arad-un sedgöl（内蒙国民

旬刊、1925年、張家口）という雑誌について調査し、写真撮影と複写した。また、中国国家図書館で1949年の建国以前のモンゴル語と中国語合璧の雑誌及びその関連資料について調査した。

3月（2013年）、北京の中央民族大学図書館、中国国家図書館、北京大学図書館で調査を行い、写真撮影と複写した。また、内モンゴル大学「モンゴル学研究センター」、内モンゴル大学図書館「モンゴル学古籍文献展覧室」、同大学モンゴル学学院「モンゴル語研究室」を訪れ、20世紀前半に刊行されたモンゴル語定期刊行物にかかわる資料調査を行った。

平成25年度

6月、中国国家図書館で1930～40年代に中国国民政府によって南京で発行された Mongyul-üge udq-a -yi-niyatalaqu tusqai darumal 『蒙古語文研究專刊』（1942年、南京）の所蔵状況について調査し、また、北京第一歴史檔案館で清朝末期のモンゴル語定期刊行物にかかわる資料について調査した。

8月、アメリカ合衆国シカゴ大学 THE JOSEPH REGENSIEIN LIBRARY で2日間、モンゴル語定期刊行物を中心に、モンゴル語、またはモンゴル関連の資料について全体的に調査し、1950年代に内モンゴルで刊行された『内蒙古日報』（中国語、マイクロフィルム）などの所蔵状況を確認した。次いで、ボストンにおいて、ハーバード大学 YENCHING LIBRARY で約一週間、モンゴル定期刊行物を中心に、モンゴル語の資料を全体的に調査し、数種類のモンゴル語刊行物について所蔵状況を確認し、複写した。その後、インディアナ州ブルーミントンにおいてインディアナ大学 SRIFIAS LIBRARY と HERMAN B WELLS LIBRARY で約10日間、モンゴル定期刊行物を中心に、モンゴル語の資料について全体的に調査し、数種類のモンゴル語刊行物について所蔵状況を確認し、資

料収集をした。

9月、島根県大学メディアセンター「服部四郎ウラル・アルタイ文庫」におけるモンゴル研究資料の全貌を確認し、数種類のモンゴル語刊行物を複写した。

平成 26 年度

9月上旬、中国のフフホト市において内モンゴル自治区図書館、また、大連市では大連図書館でモンゴル語定期刊行物を中心に、資料調査を行った。9月下旬、ロシア連邦サンクトペテルブルグ市でロシア科学アカデミー・サンクトペテルブルグ支部中央アジア研究所を訪れ、20世紀前半に中国で刊行されたモンゴル語定期刊行物について調査し、また、ペテルブルグ大学モンゴル語学科で1930年代にモンゴル人民共和国で発行された *Shin-e toli* という雑誌などについて調査し、複写した。さらに、サンクトペテルブルグの国立図書館では1909年にハルビンで刊行された *Mongyul-un sonin bicig* (モンゴル新聞) と1913年に外モンゴルで刊行された *Shin-e toil kemekü bicig* という雑誌、また、1950年代に内モンゴルで発行された数種類のモンゴル語定期刊行物についても所蔵状況を確認し、その一部を複写した。ロシア科学アカデミーモスクワ本部モンゴル研究所では同研究所図書館所蔵モンゴル語定期刊行物について調査し、内モンゴルに関する数冊の書籍を撮影した。

3月(2015年)、ロシア連邦ウラン・ウデ市にあるブリヤート国立大学ブリヤート学科を訪れ、同大学図書館で20世紀初期刊行モンゴル文字新聞について調査したほか、ロシア科学アカデミーシベリア支部図書館で内モンゴル人民革命党機関誌、上記 *Dotuyadu mongyul-un arad-un sedgül* (内蒙国民旬刊、1925年、張家口)とその関連の資料を調べ、複写した。また、ブリヤート共和国国立図書館では同国で1920年代に刊行されたモンゴル文字の新聞を中心に、モンゴル文字の雑誌

及びモンゴル語関連の資料調査を行った。

4. 研究成果

本研究の目的は上記の通り、20世紀前半に中国領内で刊行されたモンゴル語定期刊行物を世界各地から収集・保存し、それをモンゴル研究に活用するものである。特に、モンゴル語近代語彙の形成を主とする現代モンゴル語書きことばの形成について研究することが主な目的であった。下記の研究実績は、いずれもこの目的を達するために、基本的に各年度の研究計画にしたがって実施された資料調査の成果により作成、または実行されたもので、この分野における研究の空白を埋め、今後のモンゴル学研究的発展にとってたいへん重要な意義をもつであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

フフバートル「内モンゴルにおけるモンゴル人民共和国文学の受容——20世紀前半のモンゴル語定期刊行物の資料を中心に——」(下)『日本モンゴル学会紀要』(査読有)第45号55~66(2015.3)

フフバートル「*Mongyul-un sonin bičig* (1909~1918)というモンゴル語定期刊行物——モンゴル語定期刊行物史における位置づけと所蔵状況」『学苑』(査読有)No.89239~56(2015.2)

フフバートル「内モンゴルにおける「現代モンゴル語」の形成過程とその政治的側面——モンゴル人民共和国からの影響に焦点を当てて——」『学苑』(査読有)883号1~22(2014.5)

フフバートル「内モンゴルにおけるモンゴル人民共和国文学の受容——20世紀前半のモンゴル語定期刊行物の資料を中心に——」(上)『日本モンゴル学会紀要』(査読

有) 第 44 号 67~79 (2014.3)

フフバートル「内モンゴルにおけるモンゴル語の文字改革の問題——終戦後のモンゴル人民共和国「新文字」の影響を中心に——」『学苑』(査読有)No.880 1~15(2014.2)

フフバートル「モンゴル語の近代語彙と辞書(三)——「蒙藏語文研究会」と『蒙訳名辞選輯』(国民政府 1942 年)『学苑』(査読有)No.871 13~30 (2013.5)

フフバートル「モンゴル語の近代語彙と辞書(二)——「蒙文学会」翻訳『新名辞字典』(満洲国 1941 年)『学苑』(査読有)No.859 10~51 (2012.5)

〔学会発表〕(計 1 件)

フフバートル「『中国領内発行古いモンゴル語定期刊行物(1905~1950)カタログ』作成報告」国際シンポジウム「20 世紀前半刊行モンゴル語定期刊行物研究」(昭和女子大学国際文化研究所 2015 年 5 月 15 日、会場：昭和女子大学(東京都世田谷区)

〔その他〕

フフバートル 国際シンポジウム「20 世紀前半刊行モンゴル語定期刊行物研究」企画実行主催者：昭和女子大学国際文化研究所 開催日：2015 年 5 月 15 日、会場：昭和女子大学(東京都世田谷区)

本シンポジウムでは、日本、中国、モンゴル国、ロシアから 10 名の研究者が 20 世紀前半刊行モンゴル語定期刊行物について研究発表及びプレゼンテーションを行った。その成果は『昭和女子大学国際文化研究所紀要』として 2015 年度内に刊行される予定であり、また研究代表者が作成報告を行った『中国領内発行古いモンゴル語定期刊行物(1905~1950)カタログ』も 2015 年度内に昭和女子大学国際文化研究所より刊行される予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

呼和巴特爾 (Borjigin, Huhbator)

昭和女子大学・生活機構研究科・教授

研究者番号：80338540

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし